

第 10 回関西府県連合共進会の博覧会建築にみる構造形式及び外観意匠の傾向

The trends seen in the building construction type and appearance of the 10th home competitive exhibition

○高木智加¹, 大川三雄²
Chika Takagi¹, Mitsuo Ohkawa²

Abstract: The 10th home competitive exhibition held in at Nagoya city in 1910. This exhibition held to the purpose to promote domestic industry. Buildings of this exhibition affect to the buildings at Nagoya. This paper is written about the trends seen in the building construction type and appearance of the 10th home competitive exhibition.

1. はじめに

愛知県名古屋市で、明治時代後期以降に開かれた三大博覧会¹⁾の中で最も早く開催された明治 43(1910)年の第 10 回関西府県連合共進会(以下、共進会とする)は 3 府 28 県、台湾の参加で、同年 3 月 16 日~6 月 13 日までの 90 日間開催し、延べ約 260 万人を動員し大きな反響を呼んだ。

瀬口哲夫氏の『名古屋をつくった建築家鈴木禎次』¹⁾に三大博覧会についての記載があるが、建築家・鈴木禎次の関わり方が中心で同市の近代建築の発展に共進会がどのような影響を与えたかは明記されていない。

共進会に焦点を当て、共進会の博覧会建築の傾向を読み取り、同市の近代建築の発展への影響を明らかにすることを目標とする。本稿は、その一端として共進会開催の内容と博覧会建築の傾向を分析、考察することを目的とする。

2. 研究方法

①共進会概要と時代背景について述べる。②『関西府県連合共進会事務報告』²⁾掲載の共進会で建てられた博覧会建築を表 1 にまとめ、掲載されている平面図、断面図、立面図、写真から構造形式及び外観意匠の傾向を分析する。③②の傾向を①をふまえて考察する。

3. 共進会の時代背景と概要

明治 24(1891)年の濃尾地震で、同市における建物はほぼ倒壊するなど壊滅的な被害を受ける。そこからの復興と日清・日露戦争の勝利を経験し、国粹的な機運が高まっていた。重ねて共進会開催年は、名古屋城開府 300 年記念という同市にとって大きな節目の年で、市内では祝賀に対して関心が高まっていた。

開催された関西府県連合共進会とは、明治 16(1883)年大阪府の主催で第 1 回が開催され、参加府県の農産物や工業製品を出品・展示し、広く一般に伝えるもので、以降 3~5 年毎に開催されている。第 9 回が、明治

40(1907)年三重県津市で開催され成功を収めたことから、第 10 回開催地が愛知県名古屋市に決定した。

4. 共進会会場について

『関西府県連合共進会事務報告』²⁾より、もとより公園予定地として計画されていた愛知郡御器所村の約 330,000 m²の土地が無償提供された。

周辺一帯が沼地で敷地の造成の必要があり、明治 38(1905)年から進行していた精進川開削工事により掘り出された土がその埋め立てと盛り土に当てられた。共進会予定地として再整備され、明治 42(1909)年に鶴舞公園として開園、一般開放している。



図 1 第 10 回関西府県連合共進会 配置図

共進会会場は現在の鶴舞駅の東に広がり、敷地中心に正門・本館(北側に事務所が隣接)があり、本館を挟んで正門通り、噴水塔、奏楽堂が一直線上にある。

本館西側に広告塔、各参加府県の売店、旅館がある。両側に洋風の建築の並ぶ本館前面通りの南端に名古屋城の城郭建築を模した愛知県売店が配置されている。

本館北西側に、特許館と機械館、その前面にフランス式庭園の花壇があり、特許館の北側には旅順海戦館や天女館などの娯楽施設も充実している。本館南東側は、展示のほか、接待の役割の強いエリアで最東端の

1 : 日大理工・院・建築, 2 : 日大理工・教員・建築

龍ヶ池を中心として流れる川より回遊式庭園が広がり他のエリアよりも高地になっている。

池の北側に、式典などを行う式場と植民地である台湾を紹介する場である台湾館が隣接している。周辺に、貴賓館や帝室林野管理局別館、舞踏館なども庭園に点在している。

5. 共進会で建てられた博覧会建築

表 1 から、共進会の博覧会建築物は合計 30 件あり、そのうち洋風 19 件、和風 8 件、台湾風 1 件、和洋折衷 2 件である。

5-1. 構造について

『永久的建築物』である奏楽堂(鉄骨造)と噴水塔(石造)以外の建築物は全て木造である。期間限定の仮設建築であることから木造の簡易的な構造が採用されている。洋風で主要な展示空間は洋小屋組、切妻屋根の建物に塔屋や装飾などを付加している。

5-2. 外観意匠について

洋風の建築物は、木骨上に漆喰仕上げで様々な装飾が施されている。ルネサンス風 14 件、アール・ヌーヴォー風 4 件、セセッション風 1 件と、ルネサンス風の建築が最も多い。ルネサンス風の建築は、左右対称性、ペディメント、オーダー、三層構成などを持ち、アール・ヌーヴォー風の建築では、左右対称性を持ち、なだらかな曲線を用いたデザインという特徴がある。和風の建築物では、能楽堂や貴賓館、愛知懸売店など

があり、これらは用途により和風が採用されている。

奏楽堂や噴水塔は、オーダーやコーニスを持つ洋風意匠に、和風照明や奇岩を配置するなど和風意匠が加味されている。

6. まとめ

共進会では、仮設建築であるため洋風建築では主に木造が採用され、漆喰により多様な外観意匠が表現されるハリボテ建築である。

外観意匠については、主要なパヴィリオンはルネサンス風、娯楽性の高い施設はアール・ヌーヴォー風といったように、内容によって多様な外観意匠が採用されている。

また、国粹的な時代の機運から和風建築が接待空間に採用されたり、植民地である台湾館が敷地の高地に配置されその存在を知らしめたりして、共進会には産業促進という目的以上に政治的意味合いの強いイベントであったといえる。

【注釈】 i) 明治 43(1910)年第 10 回関西府県連合共進会、昭和 3(1928)年御大典奉祝名古屋博覧会、昭和 12(1937)年名古屋汎太平洋平和博覧会である。

【参考文献】 1) 『名古屋をつくった建築家鈴木禎次』、瀬口哲夫著、名古屋 CD フォーラム出版、2004. 11 発行
2) 『関西府県聯合共進会事務報告』、関西府県聯合会著、名古屋関西聯合共進会事務所出版、1910. 03 発行

【出典】 図 1) 『関西府県聯合共進会事務報告』, 同上

表 1 第 10 回関西府県連合共進の博覧会建築 一覧表

No.	名称	竣工	規模	主催	設計者	構造	外観意匠
1	正門	M42 (1909)	595.04m ²	関西府県連合共進会	中條精一郎	木造平家建て	ルネサンス風
2	本館	M42 (1909)	33844.50m ²	関西府県連合共進会	中條精一郎	木造平家建て	ルネサンス風
3	特許館	M42 (1909)	1983.00m ²	関西府県連合共進会	中條精一郎	木造平家建て	ルネサンス風
4	機械館	M42 (1909)	3004.75m ²	関西府県連合共進会	中條精一郎	木造平家建て	アール・ヌーヴォー風
5	事務所	M41 (1908)	1850.41m ²	関西府県連合共進会	愛知県技術員	木造平家建て	ルネサンス風
6	式場	M43 (1910)	991.73m ²	関西府県連合共進会	愛知県技術員	木造平家建て	ルネサンス風
7	臺灣館(台湾館)	M43 (1910)	792.00m ²	台湾総督府		木造 2 階建て	台湾風
8	帝室林野管理局名古屋支店別館	M43 (1910)	297.00m ²	帝室管理局名古屋支店		木造平家建て	数寄屋風
9	特許露糸館	M43 (1910)	297.00m ²	大日本露糸会愛知支部		木造平家建て	ルネサンス風
10	高田館		138.60m ²	高田商会		木造平家建て	アール・ヌーヴォー風
11	瓦斯館		207.90m ²	名古屋瓦斯株式会社		木造平家建て	ルネサンス風
12	郵便局		66.83m ²	郵便局		木造平家建て	セセッション風
13	鉄道営業所		32.83m ²	鉄道院		木造平家建て	ルネサンス風
14	内国通運株式会社出張所			内国通運株式会社		木造平家建て	ルネサンス風
15	明治銀行出張所		42.90m ²	明治銀行			ルネサンス風
16	警察出張所		103.62m ²	愛知県		木造平家建て	ルネサンス風
17	消防詰所			関西府県連合共進会および名古屋市		木造平家建て	和風
18	日本赤十字社愛知支部臨時救護所			日本赤十字社愛知支部		木造平家建て	和風
19	愛知県教育會愛知懸講農會休憩所		179.26m ²	愛知県教育會および愛知懸講農會		木造平家建て	和風
20	貴賓館(名古屋開府三百年記念館)	M43 (1910)		名古屋市	鈴木幸右衛門	木造	宮殿造
21	奏楽堂	M42 (1909)		名古屋開府300年記念会	鈴木禎次	鉄骨造	和洋折衷
22	噴水塔	M42 (1909)	1092.30m ²	名古屋開府300年記念会	鈴木禎次	石造	和洋折衷
23	広告塔		425.21m ²	名古屋市 仲田利吉 他		木造15階建て	ルネサンス風
24	能楽堂		86.59m ²	三井物産株式会社		木造平家建て	和風
25	大阪府売店		1122.00m ²	大阪出品協会		木造平家建て	ルネサンス風
26	愛知懸売店		1494.24m ²	大阪出品協会		木造掘建て	城郭建築を模している
27	舞踏館		979.44m ²	名古屋舞踏会		木造	ルネサンス風
28	旅順海戦館		2025.87m ²	余興街経営会		木造平家建て	アール・ヌーヴォー風
29	天女館		589.58m ²	余興街経営会		木造平家建て	アール・ヌーヴォー風
30	大阪丸御殿			名古屋市 伊藤次丸		木造平家建て	和風